

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchyū Danwakai

目 次

× × × × :	久々の談話会、盛会のうちに終る！	271
石塚 勝巳 :	入間市におけるウスバシロチョウ	274
————— :	北米のカトカラ、最新ニュース	275
神久保美津夫 :	沖縄県八重山諸島、10月上旬の蝶	278
碓井 徹 :	埼玉県の蝶に関する覚え書き（4）	279
× × × × :	訂正3件	281
加藤 輝年 :	オナガアゲハの幼虫をユズから採る	282
————— :	奥武蔵・秩父のウラクロシジミ 分布資料（2）	282
野沢 雅美 :	埼玉県産半翅類雑記（3）	283
寺山 守 :	千葉県のアリ2種	284
碓井 徹 :	奥武蔵のカラスザンショウについて（その3）	284
市川 和夫 :	ハルゼミの記録	285
————— :	フタトガリコヤガの記録	285
石塚 勝巳 :	ダイミョウゴミムシの採集記録	286
寺山 守 :	“モズのはやにえ”となったクマバチ	286
碓井 徹 :	スギタニルリシジミのポンピング	287
————— :	ネットに降下するチョウ	287
————— :	飼育ノート（1）	288
	お知らせ 2件	289
	会報	290

久々の談話会、盛会のうちに終る！

本誌No.31で呼びかけのあったとおり、久しぶりの談話会が3月29日、県立浦和高校応接室を会場にお借りして盛大に行われた。参加者は22名で、当日1時すぎに開会し、自己紹介を兼ねた1人1話の後、松井安俊・英子ご夫妻により「ヒメアカタテハの幼虫越冬」という大変興味ある発表が、スライドを混じえながらなされた。その後、本会の運営者である市川和夫氏により、「これから会の運営、会誌の発行」などについて発議があって活発な意見交換があり、また、参加者の藤本英夫氏（標本箱製作家）による標本箱製作の苦労話や箱の回覧などもあって内容豊富な楽しい談話会であった。会の運営などについて話し合われた内容については、市川和夫氏により別稿で発表されているのでここでは1人1話を再現してみたい。以下、すべて聞き書きなので参加された方々の話の内容、発言のニュアンスについては実際と違うところが少なからずあると思われますが、まずそのことにお詫びするとともに、以下の発言の内容についての責任は全面的に筆者にあることをお断わりしておきます。(碓井記)

〔参加者〕 敬称略、五十音順

石塚 勝巳	市川 和夫	碓井 徹	大島 進一	荻島 和美
加藤 輝年	神部 正博	斎藤 良夫	坂田 正哉	佐々木 和男
神久保 美津夫	竹内 崇夫	築比地 秀夫	中村 秀男	並木 杉雄
氷室 美芳	藤本 英夫	本多 健一郎	松井 英子	松井 安俊
山崎 正則	若菜 洋一	(以上 22名)		

〔1人1話〕 文責：碓井徹 () 内は発言の内容、主旨

市川：久しぶりの談話会です。しばらく活動が休止した時期もありましたが1975年から再び会誌を出し始め、特に動物誌作成を機会に投稿が増加しました。大野正男先生から「埼玉むしの会」を作るというお話があり、会員も蛾屋ばかりではなくなったので、寄せ蛾記No.23を発行する時点(1978年)で会の名称を「埼玉蛾類談話会」から「埼玉昆虫談話会」に変えて「埼玉むしの会」のアイデアを吸収したかたちになりました。また、この時から会誌はタイプ印刷になりました。

本日は大勢の方々にお集まり頂いたので、これから会の運営などについてもお話し合い頂きたいと思いますが、まずは自己紹介を兼ね

て／人／話から始めたいと思います。

佐々木：秩父の東大演習林に勤務。現在、大滝村に国道が作られており、環境
があまり変わらないうちに昆虫相、特に甲虫を調べておきたい。

坂 田：佐々木氏と同じ職場にいる。樹木相はかなり調べられているのだが、
これだけでは片手落ちだと思い、3年前から蛾を中心に調べている。

石 塚：そこは自然林は残っているのか？

坂 田：8割は天然林であり、再生林も割と原生林も割からなっている。

石 塚：コナラが主か？

坂 田：多種多様で、特に垂直分布にその多様性がある。

山 崎：高校2年から蝶をやっている。これからは、蝶に限らず広く全般の昆
虫をやってゆきたい。

斎 藤：最近は化石昆虫に興味を持っている。見沼たんぼの遊水池の泥炭層か
ら甲虫の遺体がずいぶん出てきて面白い。今年で3年目だが、ここは
昆虫に限らず、様々な分野に興味ある知見が得られている。

水 室：5年前に入会したが、虫とのつき合いは長い。以前、大森に住んでい
ていろいろ集めたが戦火で失った。戦後、しばらくしてからまた集め
始めた、これからも、ゆっくり長くやってゆきたい。

築比地：この会にはまだ入会していないが、川口昆虫同好会とかかわりあいが
あり、そんなことからやって来た。最近は生態写真にこっている。

石 塚：蛾を主にやっている。あまり県内で採集したことはないが、これから
は埼玉県内でもやってゆきたい。世界のカトカラを再検討してみたい。

神久保：主に蝶をやっている。中、高校時代にやっていて中断したが、7年ほ
ど前から虫とのつき合いを再開した。先日、石塚氏のカトカラのコレ
クションを見て驚いた。これからはカトカラも集めてみたい。狭山湖
が近いので、この周辺をフィールドにしたい。この付近ではミスジチ
ヨウも見られ、幼虫も採った。

竹 内：蝶を始めて6年になる。山形のお寺で飲み友達とウスバシロチョウを
採って虫の道に開眼？した。仙台周辺でやった後、転勤でこちらに来て、
採集地の様子などわからずにいたが、早春、ウラギンシジミの越
冬個体を採集して市川氏に連絡をとり、この会のことを知り入会した。
最近はシジミ専門に飼育していて、本日遅れたのも孵化したフジミド
リがゆくえ不明になったため。私の住んでいる安行付近はミドリシジ
ミが宅地造成で激減した。

並 木：蛾を主体に20年ほどになるが、最近はランなどを手がけ、ムシの方

は越冬気味。蛾は主に三国峠で採集をしてきたが、ここは信州的な要素があつて面白い。2200種ほど記録している。

皆 菜：主に蝶だが蛾も手がけている。昨年8月、川口でアオバセセリを見た。

中 村：浦高生物部の現役。アリを調べており、生態写真などもやっている。

公井 安：3年ほど前に入会したが、虫とのつき合いは20年以上にもなる。自宅周辺の昆虫の観察が主で、仕事は公害資源研究所で微生物を扱っている。そのため、生物の数量的な把握に興味がある。

加 藤：高校時代から蝶をやっていて吾野周辺で主に活動している。

申 部：子供の頃から虫とつき合っている。今は草加市内の蝶の分布や生態を調べている。ヒオドシチョウ、ムラサキンジミ、クロコムラサキなどが採れた。

灰 島：仕事が多忙であまり活動していないが、車で秩父などに出かけており、ムモンアカシジミにもめぐり会った。生物部の生徒達と蛾の採集をしたりもしている。

大 島：気がついたら虫達とつき合っていた。もう27、8年になる。子供向の絵を描いたりして、外国の虫も集めている。

藤 本：標本箱を作って15、6年になる。以前は家具を作っていた。オイル・ショックを境に注文が減ったが市場を広げて自家販売をしている。材はホウノキが一番良いようだ。この木は、昔から刀の鞘に使われていたほど性質が良い。蝶採りは、展翅板の研究のために始めたが、秋ヶ瀬でオオムラサキを探った時は感激して手が震えた。標本箱について皆さんの御意見をお聴きしたい。

市 川：たいへん質の高い標本箱なので、会としてもバック・アップしたい。

（しばらくの間、藤本氏が持参された様々な標本箱を手にして会員の意見、感想などが述べられる。中でも、黒いベルベットを敷いた大型ドイツ箱は風格のあるすばらしいものであり、ミニ・サイズの箱も実用的な大きさで人気があり、車に積んできたミニ・サイズ箱はいくつも売れていたようだった。藤本氏の標本箱については本誌のNo.31 p.270をご覧頂きたい。）

木 多：浦高の生物部で蝶を始め、pierisにのめり込んで、現在は大学院でも虫をやっている。今はミノガの個体群生態をやっている。

准 井：高校で生物を教えていた。埼玉県のモンキアゲハの土着に興味を持っている。また、数年前、日本のカワトンボの再分類がなされ、本県には2亜種が生息することになっているが本当だろうか。今、埼玉県内

のあちこちでカワトンボを採集して見ているところだが、何がニシカワトンボでどれがヒガシカワトンボだかわからない。

市川：子供の頃から虫をやっている。美しい虫、珍しい虫などが中心であることは皆さんと同じ。会員の中には秩父方面の方も多いので、このような談話会は熊谷あたりでも開きたい。

この後、松井氏によって「ヒメアカタテハの幼虫越冬」というテーマでスライドを混じえて話題提供があり、途中で遅れて来られた奥さんと共に大変興味あるお話を下さった。この内容については発表をする予定がおりとのことなので、ここではふれないのでおく。

そして話は会の運営（談話会の開催回数、場所のこと、夏の合宿採集会のこと、会誌の体裁、会費など）の件になり、別稿で市川氏が書かれているとおりいくつかの事が話し合いで決まった。

最後に、水室氏提供のフタトガリコヤガ（埼玉県初記録）のマユの回覧があり、話はつきないまま夕刻お開きとなつた。

~~~~~  
入間市におけるウスバシロチョウ

石塚勝巳

筆者は入間市に住んで5年半余になるが、これまで同市内でウスバシロチョウを見かけることはなかった。しかし今年になってオスノ個体を採集したのでここに報告しておく。標本は筆者保管。

採集地：入間市黒須

年月日：1981年5月5日 16

現場は西武線入間市駅ホームわきの空地で、タケニグサ、ハルジョオン、カラスノエンドウなどが多く生えており、西側は畠が続き、東側は雑木林が続いている。当地でヒメウラナミジャノメを採集している時に飛来したものを探集した。新鮮な個体で、付近で発生したものと思われる。当地はウスバシロチョウを多産する飯能市吾野一帯や青梅市成木一帯より10数キロメートル東に位置しており、県内におけるウスバシロチョウの東限の記録と思われる。入間市一帯は宅地化が進んでおり、ウスバシロチョウが生息しそうな場所は少なくなっているが、さらに東部にも分布する可能性も充分考えられる。

(〒358 入間市黒須 1-2-4 )

## 北米のカトカラ、最新ニュース

付：日本における30種目のカトカラは？・・・

石塚 勝巳

北アメリカ東部のカトカラは早くから多くの人達によって研究され、最近 Brower氏によって西部を含む北アメリカから5つの新種が発表され、分類に関しては、ほぼ解決した感があった。筆者は Brower氏と十数年前から標本の交換などをを行っていたが 1975年頃、「もう Catocala の仕事は終った。これからはミクロ・モスの研究をする」という彼の手紙により交換は中止された。新種が発表された時は、なるほどと思ったが、じきに、はたしてそう簡単に終るものなのかという疑問が、時のたつごとに強まってきた。まだまだ未解決な分類に関する問題が残っているのではないか。どれほど尊敬する人の仕事でもそれで完成したものなどあるはずがない。最近いろいろな出版物に、「日本産カトカラ 29種はよく調べられた上のもので今後の増加は望めない、などと書かれているが、はたしてそうであろうか。筆者は 30, 31種目のカトカラさえ夢見てゐる。その可能性についてはまた後でふれることにする。

ミシシッピー河以東のカトカラについては Sargent 氏が簡単にまとめている<sup>(3)</sup>が、彼自身分類学者でないため、亜種関係などには詳しく触れていない。また Brower 氏が発表した、C. lincolnana, C. texarkana はミシシッピー河以東にも分布しているのだが、それに関して何も触れていない。

東部にかなり普通にいる大型のベニシタバ (ブロンズベニシタバ C. cara) は、南はフロリダからカナダまで分布しており、南部のものを carissima という亜種にしている。この亜種について何人かの現地の研究者に聞いてみたところ、北部の人は cara の南部亜種、または単にひとつの型とまで言う人もあるが、南部ではまったく別の種として扱われている。南北戦争で対立した感情がそのまま蛾の世界にまで持ちこまれているのかとまで思ったこともあるが、各地からの標本が入ってくると、どうも別種の可能性大のようである。中部や南部では両方の型が採れているところがいくつかある。C. carissima が別種であるとの報文は近く発表されるということである。この蛾はブロンズベニシタバ (C. cara) より一まわりから二まわり大きく、珍品ではないが北米で最も美しいベニシタバのひとつである。

北米には後翅の中央黒帯の消失したカトカラが 3 種いるとされている。その

うち C.amica と C.jair は近縁で混同されることもあるというが、明らかに別の種類である。もう 1 種の C.messalina はまったく別の系統のものだ。C.amica のほうはいろいろな型を含み東部のほぼ全域から中部にかけて分布しているが、筆者は手元のわずかな標本のなかにはどうも型を越えてはっきり区別できる個体があり、もしかしたら 2 種あるいはそれ以上に分類できるのではないかと考えていた。しかし、これに関する仕事は、現在、東部のヤガ専門家によって研究されているということをフロリダの D. Baggette 氏から聽かされた。飼育と記載から少なくとも 3 種に分類されるということで、これも近いうちに発表されるということである。

幼虫に関して C.grisatra はカシ科食ではないかとされていたが、バラ科食であることが判明した。<sup>(4)</sup> また、バラ科食ではないかと考えられていた小型のクロシタバ C.miranda 、C.orba はそうであることが判った。Sargent などは C.orba を C.miranda の亜種として扱っているが、フロリダ州では両方とも採れている。Baggette は別種として扱っているようだ。以上、未だ発表されていないことばかりだが D. Baggette 氏の許可を得てここに紹介した。

北アメリカのカトカラは東部だけで 78 種はいふことになる。日本のカトカラ愛好者達も、北米の研究者に負けぬ情熱で旧北区のカトカラを再調査する必要がある。

なぜ、日本産カトカラは 29 種より増えないという見方が出てきたのだろうか？蛾屋のおごりだろうか？日本における蛾の研究は蝶に比べたらまだ始まったばかりだと考えるのは筆者一人だけだろうか。確かに 30 種目のカトカラは夢で終るかもしれない。しかし考えられ得る可能性は調査しなければならない。カトカラに魅せられた筆者は 31 種目、32 種目までも夢見ている。

可能性は大きく 2 つに分けて考えることができる。1 つは、日本には類縁種のいない新しい種の発見である。確かに国内の蛾の調査は進んでおり、大型のシタバガが新たに発見される可能性は少ないが、カトカラは必ず光や樹液にくるものではない。北米ではその双方にまったくこない種もかなりいる。それらは日中樹幹に休んでいるものが発見されたり、幼虫が発見されたりして採集される。

日本固有のものは考えにくいが、日本の近くまで分布が広がっていて、もしかしたら国内のどこかにいるのでは、というものに次のようなものを考えている。

1. *C. pataloides* . . . . 中国南部～台湾に分布  
照葉樹林帯上部にいるかもしれない。後翅の黒帯が発達したキシタバ。
2. *C. inconstans* とその類縁種. . . . インド北部～台湾  
シャクナゲ帯などにいるかもしれない。大型のキシタバで、高地で採れている。
3. *C. pacta* . . . . . ヨーロッパ中北部～シベリア・樺太  
北海道に局地的に分布するかもしれない。腹部がピノク色の小型のベニシタバで、珍品のひとつ。
4. *C. adultera* . . . . . ヨーロッパ東部～シベリア・樺太  
エゾベニシタバよりひと回り小さいベニシタバで、前翅のコントラストがはっきりしている。北海道に局地的に分布し、エゾベニシタバと混同されてすでに採れているかもしれない。

もう 1 つの可能性は、すでに知られているものが 2 種かそれ以上に分けられる場合である。こちらのほうの可能性は先のものよりわずかに高いかもしれない。筆者は、現在次のようなものを考えている。

1. 北海道のワモンキシタバと本州のワモンキシタバ  
ヨーロッパから北海道までのものはかなり類似した形質を示すが、本州のものと朝鮮半島南部のものはそれぞれかなり違う形質を示す。
2. 低地のアサマキシタバとブナ帯のアサマキシタバ  
これはあくまで想像だが、サトキマダラヒカゲとヤママキマダラヒカゲの関係に似た 2 種が含まれているのではないか?

以上、思いつくままに最近のカトカラニュースを中心に書いてみた。

#### 参考文献

- (1) A.E.Brower Jou.of Lep. Soc. Vol. 30-1, pp. 33-37, 1976
- (2) 阪口 浩平 世界の昆虫 5, ユーラシア編 pp. 236-237, 1981
- (3) T.D.Sargent Legion of Night-The Underwing Moths, 1976
- (4) Barnes and McDumough Memoirs Am. Museum Nat. His.  
New Series Vol. III part I p. 39, 1918

沖縄県八重山諸島、10月上旬の蝶

神久保美津夫

1979年9月30日～10月5日までの6日間、八重山諸島で蝶の採集を行ったので報告する。

9月30日は石垣島のバンナ岳周辺、10月1日、2日、3日は西表島の大原、大富、祖内、10月4日は竹富島、10月5日は再び石垣島へ戻り、おもと岳周辺で採集を行う。

天候は、曇り時々晴れで西よりの風が強く、蝶の採集には最良の条件とは云えなかつた。

記録の蝶はすべて採集個体で、目撃あるいは採集後に逃がした個体（破損個体）は省いた。採集と平行して蝶の写真撮影も行った。採集地は次のように略す。（西）：西表島（石）：石垣島（竹）：竹富島。

ジャコウアゲハ 4♀ (西), カラスアゲハ 4♂ (西) (石),  
シロオビアゲハ 6♂ 4♀ (西) (竹) 特に竹富島に多く発生している  
クロアゲハ 2♂ 3♀ (西), アオスジアゲハ 1♂ 1♀ (西),  
ベニモンアゲハ 5♂ 1♀ (西) 特に西表島の大原周辺に多い  
ウラナミシロチョウ 3♂ 1♀ (西), ナミエシロチョウ 1♂ (竹),  
ツマベニチョウ 1♂ (西) 目撃回数は多いが採集 / 頭のみ  
キチョウ 2♂ 2♀ (西), モンキチョウ 2♂ 1♀ (石),  
ヒメアカタテハ 1♂ (西), イシガキチョウ 5♂ 4♀ (西)(石),  
リュウキュウミスジ 3♂ 3♀ (西) (石),  
タテハモドキ 9♂ 5♀ (西) 西表島の祖内周辺に多く発生している,  
アオタテハモドキ 5♂ 1♀, リュウキュウムラサキ 3♀ (西) (石),  
メスアカムラサキ 12♂ 10♀ (西) (石) 西表島の大富で局地的に発生していた。個体数も多い。  
ヤエヤマウラナミジャノメ 2♂ 2♀ (石),  
ヤエヤマヒメジャノメ 2♂ 2♀ (石),  
ルリウラナミシジミ 2♀ (石), ウラナミシジミ 2♂ 6♀ (竹),  
ヒメウラナミシジミ 2♂, アマミウラナミシジミ 1♂,  
タイワンクロボシシジミ 4♂ 2♀ (西) (石),  
ヤマトシジミ 4♂ (石), ウラギンシジミ 1♂ (西),

トガリチャバネセセリ / ♂ / ♀ (石) ユウレイセセリ 2♀。  
ネッタイアカセセリ 2♂ (西) イチモンジセセリ 2♂ (石)。  
スジグロカバマダラ 13♂ 3♀ (西) (石) (竹)  
発生個体は各島とも、もつとも多い。  
リュウキュウアサギマダラ 10♂ 4♀ (西) (石)  
石垣島バンナ岳周辺に多い。  
オオゴマダラ 5♂ 1♀ (西) 西表島に多いが破損個体が多い。  
以上、34種 182個体を採集する。

(〒358 入間市下藤沢 158)

埼玉県の蝶に関する覚え書き (4)

碓井 徹

(14) 1980年 (昭和55年) の文献目録

- 矢島 嘉和 (1980) 北朝霞の蝶 (1), 寄せ蛾記 (27) : 219  
加藤 輝年 (1980) 熊倉山でツマジロウラジャノメ, 寄せ蛾記 (27) : 221  
巣瀬 司 (1980) ウラギンシジミの記録, 寄せ蛾記 (27) : 221  
市川 和夫 (1980) 浦和でウラギンシジミを目撃, 寄せ蛾記 (27) : 221  
碓井 徹 (1980) 1979年の採集記録より, 寄せ蛾記 (27) : 222  
加藤 輝年 (1980) コミスジの越冬幼虫の地上への移動,  
寄せ蛾記 (27) : 222  
—— (1980) スジボソヤマキチョウの交尾, 寄せ蛾記 (27) : 223  
碓井 徹 (1980) 埼玉県の蝶に関する覚え書き (1),  
寄せ蛾記 (27) : 224 - 226  
矢島 嘉和 (1980) 北朝霞の蝶 (2), 寄せ蛾記 (28) : 227 - 228  
松本 和馬 (1980) 埼玉県児玉郡上里町鳶の蝶, 寄せ蛾記 (28) : 228  
山崎 正則 (1980) 奄美大島・石垣島産と正丸岬産のカラスアゲハ  
春型雄の比較, 寄せ蛾記 (28) : 229 - 230  
碓井 徹 (1980) 埼玉県の蝶に関する覚え書き (2),  
寄せ蛾記 (28) : 233 - 234  
山崎 正則 (1980) トラフシジミの大宮での記録, 寄せ蛾記 (28) : 234  
市川 和夫 (1980) ウラキンシジミを破風山(吉田町)で採集  
寄せ蛾記 (28) : 234

- 矢島 嘉和 (1980) 北朝霞の蝶 (3), 寄せ蛾記 (29) : 235-237
- 碓井 徹 (1980) 吾野周辺 8 月中旬のチョウとトンボ数種,  
寄せ蛾記 (29) : 238-239
- 荻島 和美 (1980) 昌蒲町でアオバセセリ, 寄せ蛾記 (29) : 239
- 雨宮 英一 (1980) 浦和市におけるウラギンシジミの生息について,  
寄せ蛾記 (29) : 242
- 荻島 和美 (1980) ムモンアカシジミを大滝村で採集,  
寄せ蛾記 (29) : 243
- 田島 茂 (1980) 浦和市三室山崎地区のアゲハチョウ 2 種の知見,  
寄せ蛾記 (30) : 249
- 星野 正博 (1980) 県南にミドリヒョウモンが戻る?, 寄せ蛾記 (30) : 252
- 碓井 徹 (1980) 中津川地方、8 月下旬の昆虫,  
寄せ蛾記 (30) : 253-254
- 加藤 輝年 (1980) モンキアゲハの土着に関する資料,  
寄せ蛾記 (30) : 255-256
- 碓井 徹 (1980) 奥武藏のカラスザンショウについて (その 1)  
寄せ蛾記 (30) : 257
- 田島 茂 (1980) 浦和市三室のミヤマカラスアゲハ, 寄せ蛾記 (30) : 260
- 山崎 正則 (1980) ミドリヒョウモン初夏の記録, 寄せ蛾記 (30) : 260
- 宮倉 清 (1980) 飯能市上畑の蝶相 II, 1) おとしぶみ 9 : 1-4
- 小島 賢司 (1980) 三峰山の採卵報告, おとしぶみ 9 : 4
- (1980) 狹山市柏原の幼虫採集, おとしぶみ 9 : 4
- 石貝 龍 (1980) 狹山市のアオバセセリ, おとしぶみ 9 : 5
- (1980) 狹山市のコムラサキ, おとしぶみ 9 : 5
- (1980) 狹山市のクロシジミ, おとしぶみ 9 : 5
- 宮倉 清 (1980) スギの幹に産卵したメスグロヒョウモン,  
おとしぶみ 9 : 5-6
- 小野 哲男 (1980) 1979 年の私の活動とまでいかない蝶々とり,  
おとしぶみ 9 : 6
- 神部 正博、松井 英子 (1980) 草加市でクロコムラサキを採集,  
昆虫と自然 15(8) : 45
- 川島 敬純 (1980) 埼玉県川口市でヤマキチョウを採集,  
月刊むし (116) : 38
- <sup>2)</sup> 環境庁 (1980) 動物分布調査報告書 (昆虫類) I: 埼玉県,  
日本の重要な昆虫類 南関東版 : 1-81
- 加藤 輝年 (1980) モンキアゲハとクロアゲハの種間雑種  
<sup>3)</sup> 蝶学をめぐる諸問題 : 222-224

- 1) おとしぶみ Vol. 9 は 1980 年 8 月 15 日、所沢昆虫同好会発行手書き、コピー版 6 ページの同会々誌である。
- 2) 日本の重要な昆虫類（南関東版）は、編集：環境庁、発行：大蔵省印刷局、発行日：昭和 55 年 5 月 30 日である。内容は、昭和 53 年に環境庁によって行われた第 2 回自然環境保全基礎調査のうち、「動物分布調査報告書（昆虫類）」を南関東の 1 都 3 県について合本したものである。そのため、中表紙には、調査年度の 1978 という数字が書かれているので注意しなければならない。また、このうち、埼玉県の部分の別刷は発行日が奥付では昭和 55 年 3 月 31 日になっているが、表紙には 1979 の数字がはいっている。  
本県の昆虫のうち、鱗翅目については市川和夫氏が調査、執筆を担当している。
- 3) 蝶学をめぐる諸問題は「タカオ・ゼミナール 10 周年記念論文集」というサブタイトル付で、1980 年 11 月 14 日、同ゼミの発行による。加藤氏の論文は、埼玉県産の 2 種が材料に使われている。また、同会の中心メンバーであり、本会々員でもある牧林 功氏も「アゲハチョウ科の蛹の形態と進化」という 50 ページを越える論文を、同じく原 聖樹氏も共同執筆で姫川谷のギフチョウ属について論文を書いている。

※) 月刊誌では、上記の他に「インセクタリウム」Vol. 17 / 2 冊にも目を通したが、本県の蝶に関する記事は見つからなかった。

(〒362 上尾市壱丁目 454-3)

XXXXXX

訂 正

XXXXXX

- 1) 「寄せ蛾記」No.23 p.184 右下から 7 行目

(誤) (正)  
飯能市長浜 ⇒ 飯能市長沢  
(加藤 輝年)

- 2) 「寄せ蛾記」No.31 p. 262 タイトル

(誤) (正)  
奄美大島の半シ類 ⇒ 奄美群島の半シ類  
(寺山 守)

- 3) 「寄せ蛾記」No.31 p. 267 ~ 268 (13) 中の 7 カ所

(誤) (正)  
おとしぶみ 7・8 ⇒ おとしぶみ 7/8  
(Vol.7, Vol.8 は合併号である.)  
(碓井 徹)

~~~~~  
オナガアゲハの幼虫をユズから採る

加藤 輝年
~~~~~

モンキアゲハの幼虫の採集が目的で自宅周辺のユズを調べていたところ、意外にもオナガアゲハの幼虫が見つかったので報告しておく。ユズからの幼虫採集例は今回が初めてかもしれない。

オナガアゲハ *Papilio macilentus* 終令幼虫 / 頭

採集年月日 : 1980年9月23日

採集地 : 飯能市長沢

この幼虫は、神社の境内の脇にある樹高5mほどのユズの、地上約1.5m、やや太い枝上に静止していたものである。西側にはユズに接するようにスギを中心とした林があり、幼虫が見つかった昼間でもかなり暗い感じがした。オナガアゲハの主食樹と思われるコクサギは少し離れた川沿いに自生しているが、そこから幼虫が移動して来るのは困難に思えた。

採集後、庭のユズで袋かけ飼育をしたところ、10月7日に前蛹化、10月9日に蛹化したが、10月中旬に死亡してしまった。

飼育の経過から判断すると、この幼虫は採集時には終令初期であったと思われるし、周囲の環境なども合わせて考えると、ユズで発生した可能性が強い。

この付近のユズからはクロアゲハの幼虫が多く見つかり、アゲハの幼虫はやや少ない。ユズはモンキアゲハの部分的な食樹にもなっていると思われるが、モンキアゲハの幼虫は今回は見つからなかった。

(〒357-02 飯能市坂石町分 118)

~~~~~  
奥武藏・秩父のウラクロシジミ 分布資料 (2)

加藤 輝年
~~~~~

同じタイトルの(1)として「昆虫と自然」12(1), 1977に発表したものの続報として、その後新しく追加できた産地での、ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* の採集例を報告する。

- 8) 飯能市正丸峠・伊豆ヶ岳登山道 (360m) / ♀ 1977年7月8日
- 9) 秩父郡横瀬村「あしがくぼ果樹公園村」 (400m) 6卵 1980年7月13日
- 10) 秩父郡大滝村地蔵峠付近 (約1300m) 2卵 1976年7月28日

以上のうち卵は、いずれも(オオバ)マンサクより採集した。なお、正丸峰・伊豆ヶ岳登山道でのノキは、牧林功・D.L.Bauer両氏のおともとして一緒に採集したものだが、Bauer氏に差し上げたので標本は所持していない。

ウラクロシジミの奥武藏・秩父での分布は今では局地的だが、植林のために自然林が破壊される前は、産地も今よりはるかに多かったものであろう。

(〒357-02 飯能市坂石町分 118)

埼玉県産半翅類雑記 (3)

野沢雅美

1. 埼玉から初のメミズムシ科に就いて

埼玉県からは今まで水生カメムシに属するメミズムシ上科、メミズムシ科メミズムシ *Octerus marginatus* Latreille は記録がなかったが、児玉町金屋の県立児玉農工高校農場内にある池の水際で、1980年3月24日に1個体を得たので記録しておく。なお、水生カメムシ群に属する種は5上科10科ほど知られるが、埼玉の記録は4上科5科7種にすぎず、全く未調査の現状である。上記の個体は、筆者が採集し保管している。

2. 埼玉から知られるコガシラウンカ科の整理

従来、埼玉からは *Rhotala* 属、*Catonidia* 属 4種のコガシラウンカ科が知られていた (1978, 埼玉の半翅類) が、寄居町史編さんの為、調査期間中、釜伏峠にて本州初記録の種を得たので併せて整理しておく。いずれも標本は筆者が保管している。

- (1) ナワコガシラウンカ *Rhotala nawai* Matsumura  
傘杉峠, 23-X-1971 吾野, 23-X-1971
- (2) スジコガシラウンカ *R. vittata* Matsumura  
両神山, 1-VII-1975
- (3) イブキコガシラウンカ *R. ibukisana* Matsumura  
両神山, 1-VII-1975 本州に産するといわれるが稀な種。
- (4) ウチワコガシラウンカ *Catonidia sobrina* Uhler  
小川町笠山, 15-IX-1971 上吉田, 30-IX-1972  
釜伏峠, 15-IX-1973.
- (5) シコクコガシラウンカ *Epirama shikokuana* Ishihara  
従来、四国の山地でまれに得られていた種であるが、1979年8月4日寄居町釜伏峠での灯火採集に飛来したもので、東京農業大学昆蟲学研究会の立川周二氏により同定された。本州初の記録である。なお近々発刊される 寄居町の動物(寄居町教育委員会)に掲載予定である。

(〒369-12 寄居町桜沢2399-1 公舎2号)

千葉県のアリ 2種

寺山 守

古郡 博明氏(明治大・農)から恵与いただいた千葉県産のアリの中に、次の2種が含まれていた。氏に感謝するとともに報告しておきたい。

- 1) *Iridomyrmex glaber* (Mayr) ルリアリ

千葉県銚子市 23-II-1981 15 ♀♀ 古郡 博明 採集

本種は関東地方を北限としているようである。

- 2) *Hypoponera* sp.

千葉県銚子市 23-II-1981 8 ♀♀ 古郡 博明 採集

未記載種で、日本各地の海岸近くでのみ採集されている。現在のところ、関東地方以南で記録されている。

(〒214 川崎市多摩区登戸 2225)

奥武藏のカラスザンショウについて (その3)

碓井 徹

名栗村の有間谷でカラスザンショウの自生を確認したので報告する。

1981年5月13日、入間郡名栗村で埼玉県高校生物研究会の現地研究会が行われたが、これに参加した筆者は、有間川と白谷川の出合近くでカラスザンショウを見つけた。有間谷は、埼玉県における本種の数少ない自生地として以前から知られていた。当日、見ることができたのは、樹高約10m(カメラのピントリングで測定)のものを3本と、樹高50cm~1mの実生のものを5本である。

この日は天候はまずまずであったが気温が低く、ショウの数は少なくて、モソキアゲハは発見できなかつた。なお、当日の採集リストは後日、「埼玉生物」に赤羽トモ子氏によって発表される予定である。

(〒362 上尾市壱丁目 454-3)

ハルゼミの記録

市川和夫

都市部から姿を消しつつあるセミの一つとしてハルゼミがあげられるが、  
1981年に確認した生息地を2ヶ所報告する。

(1) 滑川村 武藏丘陵森林公园

5月9日と10日に同地を訪れたが、中央口付近から北方で大合唱を聞くことができた。多くの人が集まる南口方面でも鳴いているがそれ程多くない。

(2) 上尾市平塚 氷川神社々叢林

5月15日(うす曇) 10時、15時、それぞれ1頭の鳴き声を聞く。また、同行の学生 越川 明美さんが、きれいな脱皮殻を採集した。

5月16日(晴) 9時、雄のセミがスズメに追われ、林の外に出たところで捕食されてしまった。

5月22日(晴) 11時、3頭の鳴き声を聞く。

(〒336 浦和市南本町2-7-11)

フタトガリコヤガの記録

市川和夫

本年3月に、氷室 美芳氏から砂土中で蛹化させた *Xanthodes transverse* GUENEE フタトガリコヤガのまゆを4個頂いたが、そのうちの3個から成虫が羽化した。埼玉県未記録種なので、ここに報告する。

羽化個体 : 2♂ 1981年5月28日 1♀ 1981年6月1日

いずれも大宮市上小町の氷室氏宅のフヨウについていたものという。浦和では、フヨウの他、トロロアオイ・モミジアオイで毎年幼虫が発見できる。  
未筆ながら同氏に感謝する。

(〒336 浦和市南本町 2-7-11)

~~~~~  
ダイミョウゴミムシの採集記録

石塚勝巳

~~~~~  
採集例の少ない ダイミョウゴミムシ *Cymindis daimio* の早を埼玉県内で採集したので報告する。おそらく県内の新記録と思われる。

採集地：入間市黒須（自宅で昼寝をしていた枕もとに、はって来たところを採集。寝ぼけた眼をこすりながら、思わずどつきり）

採集日：1978年8月22日

標本は船橋市の笠原 須磨生氏が保管。発表をすすめられた同氏に謝意を表します。

(〒358 入間市黒須 1-2-4)

~~~~~  
“モズのはやにえ”となつたクマバチ

寺山守

~~~~~  
モズが木の枝などに餌物を突きさす習性はよく知られたところであり、昆虫のほか両生類、ハ虫類もよく“モズのはやにえ”となっているのが見かけられる。屋久島において、クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* Smith が“モズのはやにえ”となっていたので報告する。本個体は、中胸背板の後部付近から小枝につきさされており、採集当時はまだわずかに脚部を動かしていた。なお、屋久島はクマバチの分布の南限となっている。

鹿児島県熊毛郡屋久町栗生 23-III-1981, 1♂ M. Terayama leg.

(〒214 川崎市多摩区登戸 2225)

スギタニルリシジミのポンピング

碓井 徹

筆者は、スギタニルリシジミが、いわゆるポンピング行動を行ったのを観察したので報告する。1981年5月5日、秩父郡大滝村入川でチョウの採集と撮影を行っていたところ、地面で吸水している本種を発見し撮影するため近づいて様子を見ていると、口吻を伸ばして盛んに吸水をしながら腹端部より勢いよく水を排出するポンピング行動を3度観察した。この個体は、撮影後に採集したが新鮮な♂の個体であった。当日は晴れていたが風が強くて気温は11時の時点で15°Cと低く、他のチョウの吸水行動は観察できなかった。

なお、当日は本種を♀♂/♀採集した他に、サトキマダラヒカゲ/♂、ウスバシロチョウ♀♂などを採集した。

(〒362 上尾市壱丁目 454-3)

ネットに降下するチョウ

碓井 徹

チョウを採集しているとネットにチョウが近づいて来る、という話はいくつかの報文でも報告されており、同好者との会話にもよく聞かれる話題であるが筆者も3種のチョウについてこの行動を観察しているので報告しておく。

(1) フタスジチョウ

1975年7月21日 (晴) 秩父郡大滝村雁峰

本種を白いナイロン製ネットで採集していたところ、地面に置いたこのネットに本種が次々に降下して来て止まり口吻を伸ばしてネットをはい回っていた。多い時には5、6頭が止まっていたと記憶しており、この時に撮影した写真の1枚にはネットに止まる3頭のフタスジチョウが写っている。

(2) ツマキチョウ

1981年5月5日 (晴) 秩父郡大滝村入川

地面に置いた白い絹製ネットに本種の♂が接近し、ネットまで20cmほどの距離まで下降しながらネットには止まらずに飛び去る行動を2頭の♂に

について観察した。

(3) ウスバシロチョウ

1981年5月5日 (晴) 秩父郡大滝村入川

前種と同様、やはり本種の♂が明らかにネットに向って下降して来るのを観察したが、ツマキと違い本種のこの♂はネットに止まった。また、筆者は過去数回にわたり本種が地面でなく、筆者が手にしているネット（地面から1m前後の高さにある）に接近（明かにネットを意識？して）して来る行動を観察しており、この状態でネットに止まった個体もあった。

(〒362 上尾市壱丁目 454-3)

~~~~~  
飼育ノート (1)

碓井徹

(1) オナガアゲハ

1980年10月3日 秩父市長尾根にてイヌザンショウより♀令幼虫採集
翌10月4日、5令に脱皮。イヌザンショウで飼育して10月14日蛹化。

1981年5月1日 ♂が羽化。

(2) カラスアゲハ

1980年10月26日 奥武藏グリーンラインのブナ林近くのカラスザンショウ（樹高3m）の下枝より終令幼虫採集

10月30日深夜から31日にかけて蛹化。26日からまったく餌を食べずに蛹化した（カラスザンショウを与えておいた）が、前蛹の段階で帶糸がはずれて落下し胸部が圧迫された状態で蛹化。

1981年4月30日 ♂が羽化。口吻、触角、♀翅に異常が見られる。

(〒362 上尾市壱丁目 454-3)

寄せ蛾記

第32号

1981年6月27日

埼玉昆虫談話会

定価 250円